

謹賀新年

川柳あけぼの 第三種郵便物

社員一同

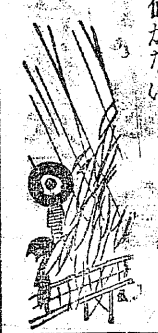
社員一同

磐城自治新報

発行日 一月十五日(毎月二回)
編輯印刷 箱崎義一
兼發行人 天崎四四番地
發行所 磐城自治新報社
電話四〇〇番

生活の意義

枯木も山の賑はいふがはくらくらでもある、世を益人間が世に生れて如何にすし社會の幸福を増進する人れば、意義ある生活である物は何のた、西郷南洲勝か世間では如何に之を見る、海舟と大江戸を何等の被か有は無に勝るが、只生れ害もなかりしたの二人のて活きて居る丈では、人間爲で他人では至難であつたとしての價值が疑はれる真らう、ワシントン米國での意義ある生活は、簡單にはなくてはならぬ人物であ云へば生れなかつたよりはる、スチブソンやエゾン好い生活する事である、誰ンも他人ではやれぬ事をやも生れたら何かしらやつて居る、雪舟やラファエ居る、然し其丈では生甲斐の作品は他人の眞似が出がない、親の財産を譲り受來ぬものである、グートーけて只其れを守つて居た斗ペンは其代りがない、釋伽りでは何等見るべきものがや孔子やクリストも他の人ない、生れなんでも同じに出來ぬ事をやつて居る是ある、若しも親の財産を減等は生れ甲斐のある人々でらし又はなくしたり人を踏ある、町村等に於ても其人み倒したり、誤魔化したりのために新に有益な事を企する者は生れぬ方が増してられたり、改良されたりある、先の財産より茶碗一他の誰もがやらぬ出來ぬ事つ殖してもいくらか生れたをやつた者は矢張り偉い生足しにはなる、然しこれ等れ甲斐のある人である、大は皆コンマ以下の生活であり小なり社會のため貢献る、尤も單に高位高官に昇るのが意義ある生活であるのたとして、單に財産を造つる、徒に生きるも死ぬるもたとして其れで意義ある生活さし障りのない人間でありだとは云へ兼ねる、本當のたくなかないものである、製潰偉い人間は大なり小なり其の製糞器では余りにも價人ならでは出來ぬ事をする値がない。



謹賀新年

Table listing names and addresses for the New Year Greeting section, including 植田町, 川口幸吉, 鈴木子之吉, 小野材木店, 佐藤材木店, 根本富彌, 大内民恵.

Table listing names and addresses for the '熊谷昇次郎' and '高野鑛泉' sections, including 福島炭礦, 熊谷昇次郎, 高野鑛泉.

Table listing names and addresses for the '川柳懸賞募集' and '鐵道省' sections, including 川柳懸賞募集, 鐵道省, 濱松屋, 大木慶三, 愛生堂, 小野藥店, 岩崎理髮店.

壹千圓會無盡のすゝめ
▽國を富まし家の産をつくる
▽無盡の中で一番よい無盡
▽千圓會の組織
千圓金は七十四人一組、二十日毎に開會、年十八回で四十九ヶ月掛ければ滿會となります。
▽抽籤ご入札
初回が抽籤で二回三回が入札、以下この割合で執行いたしますから抽籤は二十六回、入札は四十八回となります。
▽掛金ご割戻
千圓會一回の掛金は十五圓「日掛は七拾五錢」で、期日迄の掛込者には通車料として五拾錢差上げますから、差引拾四圓五拾錢となります。割戻しは入札高によつて定まりますが第二回目の割戻金は約三圓三拾三錢でありますから、實掛金は十一圓十七錢となります。
▽鐵の利益
當鐵の場合、その権利を譲りますと初回は二百五十圓位の利得があります上、その後も引續き入札もでき、くじを見ることもできます、くじ運の強い方が一人で二三度も當鐵された例は數多くあります。
▽當無盡の利廻り
當鐵落札、種々の場合を假定して御使用金がどの位の利廻りに當るかご申しますと、初回の抽籤に當つた方は、千圓丸取り年三分六厘強といふ低利でありまして、二回目入札七百圓に落札すれば年利一分三分強で、何れも四ヶ年間の濟し崩し、樂々と返済ができます。
最後に受取る方は、抽籤毎に「くじ」を樂しみ入札毎に多額の割戻しを受取りますから、出生保險や据置貯金に見るへからざる興味津々たる中に有利な貯蓄をすることが出来ます。
壹千圓口...最初の當鐵借入は年利三分六厘強に當ります。
壹千圓口...最初の入札借入は年利一分三分強に當ります。
大藏省 免許 湯本無盡株式會社
福島縣石城郡湯本町二三三五
電話四七番 振替仙臺七九六四番

滿場一致で合併承認 平銀行總會

常磐銀行と合併の承認を求むる平銀行臨時株主總會は、去る年の廿六日午後一時から同行樓上に開催され出席者五百六十一名二万三千八百四十四株、内委任状三株三百八十一人三千二百〇五株、山崎頭取休業當時から合併の交渉が成立するまでの経過を報告、高岡唯一郎氏を議長に推し常磐銀行との合併契約並にこれに伴ふ覺書承認の件を付議し不當貸附金及び其他質問應答あつたが滿場一致で合併承認は完全成立したので、早速契約による開業資金九百餘万円を本店より送附、新山浪江、内郷の三出張所を廢し外は従前通り營業することになった、これによつて本郡財界の立直の幕が切つて落された。

合併契約書
株式會社常磐銀行「以下甲と稱す」と株式會社平銀行「以下乙と稱す」とは其基礎を鞏固にし地方金融改善の爲め茲に合併の利益なるを認め兩銀行代表者は各々重役會の決議に基き左の通り定す

第一條 甲乙兩銀行を合併し乙は解散し甲は存続す而して乙の本支店は甲の支店とし又乙の出張所は其中四倉、浪江、小高の三

ヶ所を甲の出張所として存置し、新山、富岡の三ヶ所を廢止す

第二條 甲は合併により資本金六拾万円を増加し此株數壹萬貳千株を發行し乙より受継ぎたる株主名簿により乙の五株に對し甲貳株の割合を以て同等拂込の株式と引換へ交付するものとす但し割當交付につき生じたる端數株式は商法の規定により處分するものとす

第三條 乙は昭和三年下半年期損益に的中前期繰越並に有價證券賣却益金を控除したる爾餘の營業損益計算が純損金のときは無配當とし純益金のときは無配當とし純益金のときは其處分案につき甲と協議の上定むるものとす

第四條 甲乙共に合併關し其の株主總會の決議を経たる上は乙は休業中の本支店を閉業し全く平常の營業に復するものとす從つて之に要する營業資金全部は甲より無制限に援助す出張所の業務は追て合併實行迄其所屬本支店に於て併せ行ふ

第五條 甲乙共に合併に關し其株主總會の決議並に主務省の認可を経たる上は別に合併實行の時期を定め其期日に於て甲は乙の

債權債務一切を繼承するものとす

第六條 前條の債權債務の引繼は昭和三年六月三十日現在の貸借對照表、財産目録を基礎とし同日以後の財産の増減は別に計算書を以て明確にし不當の増減支出等ある場合は乙の役員個人連帶して其責に任ずるものとす又乙は右の貸借對照表並に財産目録は總て正確なることを保證し萬一該表以外の負債存在すること後日に至り發見せられたるときは乙の役員個人連帶して其責に任ずるものとす

第七條 本約定後合併實行の時期迄乙は重要な事項に付ては甲に協議の上之を行ひ損益の計算及び處分に關しは甲乙共に協議の上認るものとす

第八條 此假契約書は双方株主總會の承認決議により別に改めて契約することなく直ちに本契約書として其効力を發生するものとす

前項の株主總會は双方共に來る昭和三年十二月二十日に開催す

右契約の證として本書貳通を作成し各一通を所持するものなり

昭和三年十二月十日
水戸市上市南町
四百十三番地
株式會社常磐銀行
取締役會長 江幡新
福島縣石城郡平町
字貳丁目參拾七番地
株式會社平銀行
専務取締役頭取
山崎與三郎

天皇と世界及び日本人

三、世界の日本

神は幽界に於て間斷なく活躍作用して地球の發展進化を謀りつゝあると同時に現界方面の理想化は人類に委託せり、換言すれば神の計畫は地球の理想化にして現界の理想化は人類の使命なり、故に幽現は相通じ神人は相離る可からざるを原則とす、已に宇宙の力を認めたる吾人は、目に想たらしむるべからず、而して之を實現する根據と見るべきを以て神なしと云て之を實現する根據とする

磐城無盡商會の營業振

是迄兎角の世評に上つた植た、日の丸會の日本國旗運動は全國最初の試みとして多數の共鳴者を得中等學校小學校を始め神社役場等に祝祭日「其他」必ず數十尺の旗竿頭に國旗を掲げ國民精神の作興に資しつゝあると共に國旗講演會又展覽會をも催し大いに日の丸熱を高調につとめつゝあることを聞知し本社亦この運動を起さんとする折柄好問尋常高等小學校に於ては御大禮紀念事業の一つとして奉安庫右側に高さ五十余尺の見事なる柱を立て國旗運動に精進して居る過般祝祭の本縣吉田教育主事補も本縣最初の試みとして激賞共鳴傍地方を中心として組織せられしと。

宇宙大中心に對する信仰

四、宇宙大中心に對する信仰

敬みて惟ふに天之御中主大神と稱へ奉る神靈は、宇宙の中心なり、此大中心の活も之を映射せる大中心なるが故に、凡そ人類が安定の大中心を求め得ざる間は唯だ自己を恃みて自己利害を異にして軋轉衝突の間に軟り自己を支持せんとし自ら個々を中心とする結果に背けるる當然の現象なるが故に、然るに地球上の唯我が日本のみは建國の出発点が天照大神なる神縁關係に起し、且つ國民は其の信仰を此の宇宙大中心に歸依するに其相應を承け皇系を繼げる高御座を現界に於ける中心として絕對の信仰を捧げ吾れを主体とせず中心を主体とせる吾れ中心より分派せられし吾れとす、幾千年を一貫せる歴史を有するは神の企劃に合致し宇宙真理の表現せざるが故に、自ら眞の統一を缺き互に主義主張の至要す

好問尋常小學校の國旗運動

奈良縣社寺課安田屬等が畝

謹賀新年

川柳あけぼの 月刊誌 一部金十銭 第三種郵便物

磐城自治新報社

社員一同

活版印刷 製袋卸賣 株會社 甲子堂

<p>院長 會田政次郎 磐城炭坑小ノ田分院</p>	<p>鈴木辰之助 渡邊 豐吉 渡邊 藤吉</p>	<p>蛭田辰造 小野田炭礦飯場頭</p>	<p>藤原 善吉</p>	<p>小湊 德次 藏原郵便局長</p>	<p>喜 樂 屋 吉 田 屋 春 木 屋</p>	<p>鈴木市郎 三宅 富助</p>	<p>佐藤清三郎 三井炭坑</p>	<p>中野 屋</p>
<p>吉村製綿店 電話二五七番</p>	<p>米本 富藏 好問尋常小學校</p>	<p>荒川 庸幸 大野第二尋常小學校</p>	<p>八幡 莊藏 渡邊 康一</p>	<p>東條 光太郎 大野尋常高等小學校</p>	<p>井上 純 綾島 義雄 中村 敬三</p>	<p>作山 一枝 高木 德良</p>	<p>志賀 清 坑本請負</p>	<p>野木巳之吉 小ノ田炭坑</p>
<p>水品 敏磨 高久尋常高等小學校</p>	<p>島 素雄 好問村</p>	<p>鳳城炭礦株式會社 電話五十七番</p>	<p>鈴木 篠松 戸田 彦三郎</p>	<p>草野 金彌 夏井尋常高等小學校</p>	<p>渡邊 熊藏 四ッ倉町</p>	<p>中川 商店 好問村</p>	<p>志賀末太郎 內郷第一尋常小學校</p>	<p>鈴木牛乳販賣部 內郷村</p>
<p>丹野 秀次 丹野 寅吉 長瀬 主水</p>	<p>丹野 喜市 高木 繁彌</p>	<p>永井 億彌 玉川村長</p>	<p>加藤 元吉</p>	<p>兒玉 萬平 川部村役場村長</p>	<p>宮林 富與 全長塚小學校</p>	<p>渡邊 壽重 浪江尋常高等小學校</p>	<p>永山銀之助 好問村</p>	<p>志賀 兼吉 遠藤 仙右工門 遠藤 惣三郎 遠藤 藤之丞</p>
<p>山崎木炭店 木炭販賣</p>	<p>中屋 幸三郎 鋸製造 湯本支店</p>	<p>佐波古直元 縣社温泉神社司</p>	<p>荒川 銀次 土木建築請負</p>	<p>大浦 孝彦 電一〇三番</p>	<p>金成屋商店 電十二番</p>	<p>那須 理吉 海產物商</p>	<p>管波 藥店 諸車農具製造</p>	<p>大 正 湯 岡崎 淺吉</p>
<p>高木 邦彌</p>	<p>吉田 正次 中野 常助 佐藤 菊松 久保 木丈介 白鳥 宏式</p>	<p>酒井 賢吾 酒井 嘉藏 佐藤 八郎</p>	<p>坂本 善一 永山 善一 北郷 雄吉 高原 兼次 石川 兼次 金子 庄兵衛 佐藤 義貢 白石 義雄</p>	<p>若松 德三郎 鯨岡 賢司 鈴木 末太 若松 幸藏 櫛田 輝雄</p>	<p>小松屋菓子店 赤津清五郎</p>	<p>小井戸庄松 建具商</p>	<p>小松 精助 駒木 根忠三 小澤 熊次郎 箱崎 市松 丹野 七太郎</p>	<p>湯本町消防小頭</p>
<p>小松 龜太郎 外職員</p>	<p>木田 茂平 外職員</p>	<p>岡田 圓次郎 外職員</p>	<p>大敷事務所 豐間村</p>	<p>小田炭礦株式會社 秋原申八</p>	<p>飯塚 榮一 小野 德七 立花 雄七 中野 鉄之助 岡山 重喜 小濱 長太郎</p>	<p>堀 越 新平 飯塚 榮一 小野 德七 立花 雄七 中野 鉄之助 岡山 重喜 小濱 長太郎</p>	<p>大井川 半兵衛 鈴木 銀吾 野木 左内 芳賀 松次郎 吉田 忠七 磯上 文彌 矢内 彦次郎 御代 利平</p>	<p>小畑 實之助 四家 秀行 白石 猶造 大井川 十郎 木田 周平 若松 總太郎 里見 兼吉 會田 政次郎 大和田 隆介 織内 才吉 久田 克位 磯上 傳平 金成 仙藏 國井 縫治 吉田 秀吉 酒井 秀吉 清水 角次</p>